

雷のような逆毛を背負った、美しい私の犬

幼い頃海外で暮らしていたまどかは、番犬用の仔犬「虎」と出会った。
唯一無二の相棒だったが、一家は帰国にあたり、犬を連れて行かない決断をして――。

感動の声、続々！

犬との深い絆と、それでいて
絶対に越えられない断絶とが
まざまざと書き出されている。

――紀伊國屋書店京橋店 坂上麻季さん

心の最深部まで行けるような
得難い相手を忘れることはできないし、
誰も代わりにはなれない。

――ジュンク堂書店上本町店 光定真美子さん

獣の本能、人間から犬への愛、
犬から人間への献身、恐ろしい
美しさで生々しさ、汚さと尊さ。

圧倒的な「生」の物語。

――田村書店吹田さんくす店 村上望美さん

体の奥深くに
刻まれるような愛の物語。

二つの命が重なり合った、大切な
想い出が残像のように、胸に残る。

――紀伊國屋書店福岡本店 宗岡敦子さん

抱きしめたくなくなった。

私が抱きしめたところで
虎の代わりにならない。けれど、
10歳のまどかを抱きしめて泣きたい。

――TSUTAYA南古谷店 石木戸美穂子さん



「一生書きたくなかった気もするし、書いて救われてしまった部分もある」

直木賞作家 千早茜 感動の最新作 雷と走る